

が ん ば

報 告 部
友 友 会
育 小 三
島 三 小 育 友 会 報 告 部
発 行
廣 報 部

〔第55号〕



味はいかがですか

三小 学校給食試食会

本日の献立

酢豚・バナナ・マーガリン・パン・牛乳

3月6日、3年生の保護者を対象に、第1回給食試食会が開かれました。会長・副会長をはじめ、会員40名の参加でした。

牛乳はパック入りになり、飲みやすく、パンも工夫され、おいしくなっていました。

今後の育友会に望む

藤 山 貞 子

子供の入学と共に三小育友会に加入致しまして、早や八年が過ぎ、今年で親子共々、卒業となりました。今、その過去を振り返ってみますと、入学からの数年間は、学級及び町内の育友会活動にのみ目を向ける事しか出来ませんでした。段々とその活動を通して育友会全体をみつめる事が出来そうになりつつあると思

った時には、早や卒業となっていました。三小育友会の様に教においても千人以上の大規模な組織になりますと、その運営も大変な事だと思えます。育友会の運営方針は町内代議員各町内二名、学級代議員各学級二名の選出に依り代議員会が構成されています。その代議員の皆様が八つの各専門部に分かれ、それぞれ部活動がなされています。どの専門部におかれても、非常に良く活動なされている事は、周知の通りです。しかし、育友会の活動をなされておられる方が殆んど代議員に限られています。そこで必要と見える事は、一般会員と代議員との間に、もう一步の親密度が望ましいと思えます。そして、その連携がなされた時に、より良い育友会へと発展するのではないかと思っています。

誰もが生活にゆとりを望む様に、心にもゆとりを持つ事を心がける事により、より大きく視野が開け、個々の連帯も出来ると同時に、一つの大きな和を作り出す事が出来るのではないかと思えます。卒業にあたり、会員の皆様のご協力のもとに、三小育友会が増々発展致します事を心から期待しております。

心の目を開こう

学校長 原 口 晃



「ちゃんとして、いるだけのお金はやっとなし、何でも買おうとやっとなし。どうして人の物を盗んだのか。そんな盗つとはうちにやおらん。何と云うことをしたのか。」

このことばは子を思う父親のことばであり、母親の気持ちであろう。叱るのは子を思うからこそ、自然なことばに現われるのである。これは愛情である。子を思う親の真心に外ならない。

ただ、ここで考えたいことは、愛情に伴うかどうかという点である。愛情は尊い。しかし、知恵なき愛は時に人を傷つけることを知らねばならない。知恵とは何か。それは、人を、物を生かすことという。相手の心を傷つけることは、相手を殺すことになる。自分ではよいと思って言ったことでも、または、行なったことでも、相手の気持ちを殺すようなことになっては何にもならない。結果をよくしようと思えば、相手を生かさねばならぬ。生かすためには、十

分考えて、このことばは、このような行為は効果的であるかどうか、工夫することが大切である。

人間はひとりひとり、考え方が違い、性格も異なっているけど共通した面もある。

根本的に、人間は「愛されたたい。認められたい。ほめられたい。人の役に立ちたい。」などの欲求を持っているといわれている。人はだれでも、叱られるような事をしておつてさえ、だれかに自己の存在を認められようとするものである。それで、われわれは、その行為をとがめる前に、その認められたいという相手の心情を察してやらねばならないと思う。そのうえで、ことばの言い方を工夫すべきである。忠告する場合、そのように気を配って話せば、相手は自分の気持ちを認められたい

れしさを感ずるものである。相手と和解する気持ちで、相手に対する見方を変えれば、悪とみえることも善に変わっていくものであるという人もい

わたりは、時々こう考えることがある。悪いと思われることを悪と考えず、これは強い個性のあらわれであると思ふようにするのである。個性と思えば悪い気持はしない。この個性をどう教育するかが問題である。子を持つ親の思案のしどころと思う。

子どもに一つのきわだった行動があるときは、それによって何かを訴えているのである。口に言えないことかもしれない。表面的には子ども自身はわからぬことかもしれない。たとえば、物を盗んだ場合、物をほしいのだからと思つて、物や金を与えても、盗みはなかなか直らない。それは、根本的に、愛情の欠除だといわれている。だから、物ではなくて、心を与えなくてはならないのである。また、あばれたり、めだつた行動をするのは、だれかに認められたいからであろう。弟や妹をいじめたのも、親が一人前の兄として立てていない場合が多い。兄として人格を認めて

やれば、兄らしく弟や妹にやさしくするのである。何といつても、兄弟姉妹の秩序は保ちながら、公平に扱う親の心配りが、仲のよい子どもをつ

このように、それぞれの心の底にある根本的な欲求というものを知って、人間の表面的な行動のみに心を奪われず、知恵のある愛情を施し、相手を認め、ほめことばを与えないと思ふ。

さて、ここでほめることの重要性について述べてみたい。よく世間では、単にうわべだけほめても、あまやかすだけ、効果はないということをして耳にする。この人間は悪く、とりまく環境もよくないなどと心の底で思いながら、いくらかほめても効果はないだろうと思ふ。ほめるには条件があるような気がする。相手の本当の姿はすべて善であるという認識に立たなくてはいけないと思ふ。表面的には悪く見えても、本心は善であると強く信じて、真心こめてほめることが大切である。

「君はもともと立派な心の持主である。決して悪いことをする人ではない。悪く思わ



れている姿は君の本物ではない。君には○○のよいところがある。立派なものだ。○○の長所がある。偉いと思う。また、いつかは○○の親切をやったことがあったね。あの時は感心したよ。あげていくと、いくつものよい点があるではないか。その君が、あんなことをするとはおかしな。もつと君自身の善さに気づきなさい。わたしは君を信ずる。……と、断定的なことばで、どんな小さなことでもよい、ひとつひとつよい点をあげて、心からしみじみと、その善さを強調していくとき、相手の心は自然ととけて、良心への訴えが始まるのである。

このように、あくまで本心の善さを引出そうと心をこめてほめていくとき、悪くなるはずはないと思ふ。「教育とは、称賛のことばを雨降らすことである。」ということを聞いたことがある。相手の性の善なることを信じて、愛し、認め、ほめていくとき、いかなる人も善に立ちもどらない人はいないと思ふ。

はじめての試み

一学級対抗バレーボール大会

学級部 古 井 久 輝

学級育友会の出席の向上に努めることに力を入れ、どのようにすれば目的達成が出来るか、話し合ってきました。低学年は毎回八十〜九十%の高出席ですが、高学年になると、クラスで多いとき十二〜十三人位で、それも出席される方は決まっている人ばかり。一人で多くの人に出席

お父さん、お母さん

登校指導、くろろうさま

交通部長 岡 本 正 秀

今年度の反省をという事で、原稿用紙をもらい、さて今年は何をしたのかなあ...と振り返らせてみると、交通部長として何一つしていないことに気が恐縮しています。

三小を中心とする交通網の整理も一段と強化され、子供

学級代議員の方々には非常に御迷惑をかけた事を深くお詫び申し上げます。初めてはなかつたかと確信しております。競技の終わった後、学級代議員の方々より色々の意見、忠告反省の言葉を戴きありがとうございます。ごさいました。

しかし、この一ヶ年、役員会員の御指導、御助力を頂きながら、満足に目的を果し得なかつた不徳を心よりお詫び申し上げます。

会員の皆様、子供達の育成を考え、進んで会合に出席され、子供達の幸福を願ひ、今後とも会員の皆様方の御努力御協力をお願い致します。

境だったと記憶しています。

三小の場合は、各町内の父兄の方々が非常に熱心に登校指導をしていただくことで、先日の交通部長会でも他の地区の方々からほめられたことでした。

さて、来年度はぜひ交通部長さん若い方に引受けていただき、出来れば国道筋の町内の方が適任じゃないかと思えますがいかがでしょうか。

テレビ社会もそうでしょうが、車社会の現在、よりよく溶けこんでいく教育も、これから先必要ではないでしょうか。

国体種目の一つ

水球をとり入れた水泳大会

体育部 片 山 千代薫

昨年、広田部長さんの下で、八月二十七日開いた水泳大会副部長として協力してきましたが、体育行事のほとんどがよくわからないまま、今年、部長の重責を引き受けることになってしまいました。しかし、幸い、役員の方々の指導と部員の方々のはじめ、多くの人達のご協力のおかげで、なんとか責任をはたすことができましたことを感謝いたしております。

さて、今年度の体育行事を振り返って見ますと、まず、最初に行なったのは救急処置の講習会でした。七〜八十名余による真剣な学習がなされました。次に、子どもクラブの球技大会を七月三十日に行いましたが、男子のソフトボールでは、試合方法をリングリグ制にし、試合回数をおやすみすることで、より積極的な参加活動がなされました。

三番目の育友会町内対抗バレーボール大会を八月二十日に行いました。多くの町内が保険をかけるなど、万全を考へての参加がなされましたことは大変良かったと思われま

振返って見ますと、まず、最初に行なったのは救急処置の講習会でした。

このように、今年も多くの行事を設けましたが、ほとんどの種目を成功のうちに収めることができました。これはひとえに、係役員をはじめ部員の方々の積極的な参加とご協力の賜物と思えます。ただ次年度への問題点と考えられますことは、育友会町内対抗バレーボール大会への参加が年々減少してきていることです。育友会の親睦をいっそう深めていくために、より多くの参加がなされるよう来年度の体育部のご活躍と育友会員のいっそうのご協力を期待します。

このように、今年も多くの行事を設けましたが、ほとんどの種目を成功のうちに収めることができました。これはひとえに、係役員をはじめ部員の方々の積極的な参加とご協力の賜物と思えます。ただ次年度への問題点と考えられますことは、育友会町内対抗バレーボール大会への参加が年々減少してきていることです。育友会の親睦をいっそう深めていくために、より多くの参加がなされるよう来年度の体育部のご活躍と育友会員のいっそうのご協力を期待します。

このように、今年も多くの行事を設けましたが、ほとんどの種目を成功のうちに収めることができました。これはひとえに、係役員をはじめ部員の方々の積極的な参加とご協力の賜物と思えます。ただ次年度への問題点と考えられますことは、育友会町内対抗バレーボール大会への参加が年々減少してきていることです。育友会の親睦をいっそう深めていくために、より多くの参加がなされるよう来年度の体育部のご活躍と育友会員のいっそうのご協力を期待します。

このように、今年も多くの行事を設けましたが、ほとんどの種目を成功のうちに収めることができました。これはひとえに、係役員をはじめ部員の方々の積極的な参加とご協力の賜物と思えます。ただ次年度への問題点と考えられますことは、育友会町内対抗バレーボール大会への参加が年々減少してきていることです。育友会の親睦をいっそう深めていくために、より多くの参加がなされるよう来年度の体育部のご活躍と育友会員のいっそうのご協力を期待します。

愛の手を伸ばそう

わが子に 他人の子に



生活部 永門 重明

活動的な春の訪れとともにまた卒業の季節となりました。生活部の活動という事で年間計画をたて、ついこの間出発したばかりのようでしたが、充分なこともできず、反省の時期になってしまつたようです。

しかし、今まで活動してきたことについては、担当の先生をはじめ、部員の方、育友会員の方々の並々ならぬ協力によりまして、有意義な中に少しでもその成果を上げることができたのではないかと心から感謝致しております。

一致 協力 一日も早く施設改善を

環境部 高原 寿一

本年度、環境部長をお引受け致しましたが、何分初めてのことでも、どのように活動してよいものか思索しておりまして、先輩各位のご意見を伺いながら、年間の行事目標を立てることが出来ました。しかし、私の怠慢により、計画倒れに終った面もあり、大いに反省しています。唯一、一つの救いは、プール

サイドの除草作業だと思ひます。多数のご参加とご協力を、無事終了出来ました。また、年末(冬休み中)には、学校のゴミ処理(公民館横)に於て行届かない点があり、ご迷惑をおかけ致しましたが、車の手配などご処置下さいました方々に、心より感謝申し上げます。

⑤初市会場で巡回指導
●三月三日より十日まで、三、四名を一组として毎日実施する。
など主な活動を列記してみました。最近の新聞・テレビ等の報道を見るにつけ、子供の非行・自殺等のあまりの多さに、親として、どう対処したらよいのか。
親子の対話・躾・生活環境の見直し、今また、問われている時ではないかと思ひます。この一年の反省に当り、私たち親に与えられた大きな問題の提起として、今後の活動に生かして行かなければならないかと思ひます。
最後にあたり、育友会みな様の多くの方々のご協力に對し、心から厚くお礼申し上げます。新年度の方にバトンタッチしたいと思ひます。

②巡回映画会の開催
●十二会場、十八町で開催する。
●夜間街頭補導の実施
●夏休み中に二回実施する。
④非行防止の懇談会
●少年センターの坂本先生を講師に補導委員の方々と懇談会を開催する。(7・22)

トイレの改善(水洗式)につきましては、保健・給食部と連名で、校長先生へ要望書を提出し、早速、市と交渉して頂きましたが、予算の都合で早急には無理と言ふことでした。
来年度も施設の改善など、皆様方のお力添えを得、一日も早く解決されることを希望するものであります。
この一年の私の努力の至らなかつた面を埋め合わせる意味でも、この先も皆様方と共に育友会発展の為、頑張りたいと思ひます。

読書者が少なかった 育友会巡回文庫

教養部 塚崎 和秋

本年度の教養部の目標に、「学校教育への理解を深めると共に、会員の教養を高める」ことを目標に、次のことを計画し、実践をしました。
一、講演会の開催
二、巡回文庫の実施
三、研修旅行の実施
四、県P島原大会への積極的な参加

「が八十一%で、夏休み実施が六十六%ありましたので、代議員さん宅にお願ひして、実施をしました。実施のようすをみてみると、読書者十%以下の町内が七町内もあり、実施希望八十一%に対しては読書数が大変少なく残念に思っています。
巡回文庫よりも「授業参観日等に図書室の開放」の意見も出ていますが、次年度検討する必要がありますと思われまふ。研修旅行は、西彼長与町の高田小学校を視察致しました。具体的な報告は、別に報告していただきますので読んでください。三小育友会活動が参考にしなければならぬことがたくさんありました。
この一年間、担当の永野先生をはじめ、会員の皆様のご協力に、厚くお礼申し上げます。

講演会の開催は、第一回は市教育委員会学校教育課長園田秀利先生に、本校体育館で七月四日に「家庭教育について想うこと」ということで講演していただきました。
二回目は、本校の情緒障害児学級担任の小峰忠与士先生に、本校体育館で十二月七日に「子どもの心と親子関係」ということで講演していただきました。両講演共に会員の出席者は二〇名ぐらいで、大変、親として参考になりました。

巡回文庫につきましては、実施前にアンケートをお願ひしました。おせひやってほし



やっとできた給食試食会

保健給食部 芝田 扶実子

保健給食部年間の行事として
○目標：学校給食の内容充実に健康安全に対する意識の高揚

活動計画

一、試食会

二、米飯給食施設の見学会
三、栄養士と調理員との懇談会

四、便所の改善（水洗便所）

五、病気のなすけの実態調査

六、保健的なしつけの徹底
以上のような内容項目について

始めに便所の改善について
育友会長、環境部長、保健給食部の連名で校長先生に要望書を提出。その結果、水洗トイレは予算の関係上まだ無理のようで、一部新しい便器に取り替えられました。基本的改善は時間がかかりそうです。

去る三月三日、保健給食部初めての試みで栄養士の先生二人と三小の調理員の方五人をお招きし、図書室で懇談会を開催しました。栄養士の先生からは学校給食の献立基準、栄養食品の摂取量など専門的なお話をいただきました。また、島原学校給食主任者会議というのが月に一回行わ

れて、市の教育委員会から一名、栄養士二名、学校主任一名、この人達で献立の基準が示され、これを基にして献立

表の作成がなされるそうです。特に食品添加物、冷凍食品などには気を使っているように見えました。

また、養護の山田先生より

三小の肥満児の実態調査についてローレル指数のお話がありました。三小ではやや肥満児が多いのではないかと、運動とのバランスが伴うこと

で、各家庭での配慮がもっとも大切ではないかということと、肥満児教室への不参加が多いということ。次に調理員の方のお話では三小は他校にくらべて残飯が少ないということでした。

これは児童の皆さんが良く食べていると大変よろこばしい事だと思っています。

また、早く新しい給食調理場に改善してほしいとの要望もあり、食器のお皿が新しくなり、牛乳がパック入りとなり運搬が大変らくになったようです。



二学期の学校給食アンケート

ト調査では貴重な御意見、御要望をいただきました。その中でもっとも多かった試食会を三月六日に三年生の保護者を対象に四十名程で実施いたしました。

五十三年度の広報部は、小峰先生と部員六人でスタート致しまして一年……この五十五号「がんば」発行を以って、一年間の重責をはたし、次年度へバトンを渡せるようです。年度初めに計画した案に従って、少々枝葉などつけながら、

少教部員での活動が取材などに思うように力が及ばない点もあり、また女性ばかりと言う面も、内容的に片寄りがあはれないかと、常に気にかけており、来年度は男性も加わっていただき、ますます大きく成長してほしいと思っております。原稿を一般会員からいただくだけでもいいと思いますが、なかなか投稿がなく、部員として最大の悩みです。

会員の声の広場に

育てたい 有馬 隆子

発行回数では、ほんの五町内の紹介にとどまりました。町内ぐるみ活発な育友会活動を続けている町内を、今後も続けて紹介して欲しいと思います。今年度は運動会のアンケートを中心とした臨時号を発行できました。これは広報部としました。数年來の念願でありましただけに、この号の発行は大きなよるこびでした。

一月十四日、市連P広報部主催による研修会が開かれました。新聞作り専門の経験豊富な講師により我が育友会報「がんば」の診断を受けました。素人ばかりの集りで作っていた「がんば」も種々と耳の痛い評や指摘を受け、今後の作成に役立てていけるものと思っております。会員皆の広報誌です。思うことを思うままに、おしゃべりでもするつもりで、「がんば」まで、一筆お寄せ頂きたいと思っております。皆の意見発表の場として、可愛がってほしいのです。そして大きく成長させていきたいと思います。

市連P活動 盛んになる

市連Pは各単Pで解決出来ない問題を各専門部ごとに出しあって連Pとして解決する方針で専門部会が開かれております。一例として連P主催の橋田先生の講演会があげられます。

連Pの力を結集した大きな力が今後とも期待されます。

校舎中央に時計

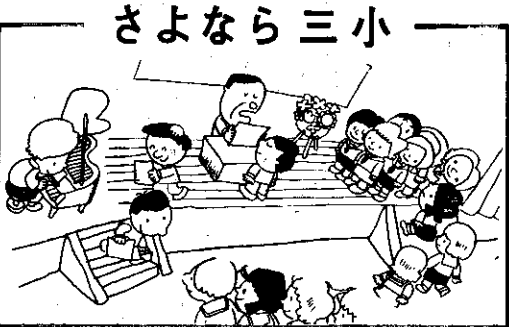
がつきました
坂本さん
ありがとうございます

前副会長坂本さんが御母堂様の香典返しとして、金一封を三小育友会に寄附されました。役員、校長先生方と相談しました結果、山ノ内時計店の好意により、大きな時計を運動場から良く見える所にとりつける事が出来ました。運動場で遊んでいる子ども達も帰宅時間を正確に知ることが出来ます。ありがとうございます。

卒業をひかえて

六ノ一 西川 清美

子どもが三小にお世話になるようになりまして、上の子どもから十一年間、長い間お世話様になりました。思いおこしますと色々な事が浮んで参ります。体育祭での応援合



さよなら三小

戦、音楽会、マラソン大会、子どもにとって一番の思い出の深い修学旅行と、一つひとつ取りあげますときりがありません。球技大会では暑さも忘れて一生懸命走り回っている子どもに呼ばれて大きな声を出して応援したものです。町内育友会旅行では、町内

所を見学させて頂きました。それに育友会バレー大会です。できもしないのに練習日はいそいそと出かけて汗を流し、

町内の皆様と雑談したりするだけで、とても楽しゅうございしました。次の日はとても足が痛くて歩く事もできず子どもや主人に笑われることもありました。中学にはいりますと町内育友会の皆様とも接触が少なく何となくさびしいような気がします。

最後になりましたが先生方、育友会の皆様方、長い間お世話様になりました。



グッバイやったけど

最後まで

六ノ四 峰 マサ子

右半身マヒのため、六年間の温泉病院の入院生活を終えて、わずか一年間ではありましたが、こうして皆さんと机を並べて勉強することができ心から喜んでいきます。退院は私達親子にとって何よりの喜びでしたが、その半面、転校への不安が大きく、何日も話し合い考えました。誰にも体は不自由ですが、誰にも

負けない明るさと、すなおな心でどんなつらいことも、きつときりぬけてくれることを信じてみよりました。

運動会、遠足と次々の行事にも自分からすすんで参加し、運動会が最後の姿を見た時、思わず目がしらが熱くなるのを感じました。マラソンの時も「グッバイやったけど最後まで完走したとよ」と満足気に帰ってきました。何事にもよくよせず成長したのも、体は不自由でも心は明るく、ほがらかに成長してくれ

ることを願い、小さいときから人の集まる場所にどんどん連れて出かけたものでした。また、どんないやなこと、つらいことがあっても、決して自分を修めに思っではいけない。「物事は良い方に解釈しなさい」と言っています。

たとえ、右手がつかえなくとも左手がつかえる。自分より、もつとつらい人がいると思えば、どんなつらいこともきつときりぬけていけると思っています。

こうして皆さんと楽しく過ごせたのも、先生方はじめ学級の皆さんの励ましがあったからだ感謝しています。



わが家の

モットーは

健康第一

六ノ三 本田 法子

日一日と暖かさが増し、桃の花がほころび初めると、いつも迎えるのが卒業の季節です。

今年、わが家も三人の兄妹の末っ子である長女が、この三小を卒業します。

思い返してみますと、新入学に進み、違った環境にはなりません、勉学に運動に励み、明るく健康で大きに成長してほしいと、親の欲めで思っています。

でも、兄妹合わせて十二年間という長い間、三小育友会の一員でありましたことを思えば、やっぱり一抹の寂しさ胸を去来します。

もう、この子で、小学校は終りだ。後にもう一人子どもがいいたらなあ……と思ったりもします。

子どもは元気がよかったです。雨の日も、風の日も、暑い日も、寒い日ものりこえて、学校を一日も休むことなく通ってくれましたことは、

わが家のモットーである「健康第一」にとって、本当に喜ばしい事でありました。そしてこんな子ども達を温かく見守って下さり、ご指導をいただいた諸先生方に心から感謝致しますとともに御礼を申し上げます。

小学校でのいろいろな出来事は、子どもが成長してゆく過程に於て、心のどこかにきつとよき思い出として残ることでしょう。

小学課程を卒業し、中学校に進み、違った環境にはなりません、勉学に運動に励み、明るく健康で大きに成長してほしいと、親の欲めで思っています。

そして、そんな成長に必要な子どもへの肥にいつもなりたいと思ひ、踏台にして伸びてほしいものです。

どうかこれからも、三小が益々発展していきますよう、育友会の方々も協力し合っにより良い第三小学校を築かれますよう、お祈り申し上げます。



卒業のよるこ

漢町 山崎 史恵

ここに皆様方のおかげを受けて卒業させて戴きますが、担任の先生は勿論、諸先生方、また、お友達の皆さん、本当に心から感謝いたしております。幼稚園から小学校、そして中学・高校・大学という学校教育過程を通して、一社会人となるまでに、一人でも多くの友と手をとって大きな輪をつくり、その輪の中で人ととしての正道を素直に見る事の出来る人間として育つ事を、常に願って来た私でした。今では、娘も快活な少女として育ってきている様に思います。思い出おこせば、ついこの間親子で手を取り乍ら校内をくぐり、「担任の先生は、だれになるじゃろかね……。」と言いながら教室に入った時が、昨日の事のように思えます。これからは、新しくはじまる未知の世界を求めて忍耐力と、人情厚い一人の学生としての道を歩いて欲しいものと思っております。卒業の日のこの感激は、二度と迎える事のできない人生最高のよるこびであると思います。いついつまでも、母と子の脳裏に想い出の一ページとして残る事でしよう。

玄関を一步入ると調理室

高田小学校視察一

岩崎 暁子

三月二日、昨日来の冬空と、うって変わった上天気は、恵まれ、尾形教頭先生・永野・梅林両先生と、前山育友会長・佐久間副会長に引率され、私達育友会会員総勢四〇名で、長与町の高田小学校へ見学に行きました。同校は、長崎市のベッドタウンとして次々に団地が造成され、人口急増によって独立した新しい学校だそうです。児童数約七〇〇名、学級数十八で三小より少々規模の小さい学校です。校内は、非常に明るく、最初におどろいたことは、玄関を入るとすぐに給食調理室があり、広々とした室内で、とても設備が良く行きとどいていたことです。また、各教室の前に手洗場所が設けられてあり、給食後の

歯磨きの習慣をつけるためだそうです。とてもよいことだと思えました。育友会活動も活発で、特に母親が非常に活躍されている様子でした。専門部会は四部長さんで、女子の部員だそうです。私たちも、もう少し頑張らなければと思えました。各部共、幅広く活動され、その中の一つに保健体育部の行っているスポーツ教室があり、これにはバレーボール・バトミントン・卓球・民踊と四つのクラブに分かれており、年間を通して、一週間に一回放課後の体育館を借り、一時間位の練習をしているそうです。会員の親睦が増し、とても良い事だと思えました。

報告 視察研修部 養教南高 P 連研修大会

昭和五十三年度南高連合PTA研究大会が北有馬中学校で、二月十六日開かれました。八つの分科会に分かれ、それぞれの研究内容に従って討論研究発表があり、私は第六分科会の学級集會に参加しました。北有馬の西側山間部の谷間にある全生徒一三〇名、学級数六、育友会員七六世帯の小規模の坂下小学校六年(生徒数二二名)の学級部会の活動発表でした。授業参観を主体に担任の話をお聞きし、毎週一回学級集會が行われているそうです。年間計画も、親子社会見学、親子スポーツ、親子レクリエーション、親子水泳大会、親子ゼンサイ、親子遠足等と親が参加するテーマが多いのは、会員数が少ないため、まとまり易いのだと思います。また、六年生実態調査で、毎朝歯を磨くのが二十四%、通校距離が四キ

南高連合PTA研究大会に

参加して

学級部 殿 村 宣子

は、私達にとって良い勉強に成りました。また、帰途の車中は、にわかアデランガイドさんも共々、愉快になごやかにミードのうち、島原の地へと帰着致しました。次の機会には、より多くの参加者がありますことを希望してやみませ

ローメイトル以上と言う所もあり、登校時間が七時と早く、店が少ないため小使いも不必要等、その他のアンケートも全体的に小規模で、同じ職業が多く、廻りの環境も三小と比較出来ませんでした。しかし、学級集會の悩みは同じで、いろいろ意見が出ました。話し合いは方言でいい。知り合い同志で席を取らず、ヒソヒソ話、勝手な話し合いをしない。円型に席をつくり、前に名札を置き、お互いに顔と名前がわかるように座る等、来年度、三小に於ても参考になるのではないでしようか。親として、この大会に参加し、学級数二十数名とまでいかずとも、せめて三五・六名位のクラス編成で、先生と子供との交流をもっと多くもってほしいといふ、少々うらやましく思つて帰宅しました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

町内の子ども達の

和と協力を願って

一坂上町育友会



年度はじめの育友会の話し合いで、行事を計画し、それにもとづいて、一年間とりくんで来た。

他の町内と異なつたことはなに一つしていませんが、スポーツをとおして、町内の子ども達の仲間意識を育てることを願って、男子はソフトボール、女子はフットベースボールにとりくませた。

町内育友会紹介

練習場がなく、島原屠殺場跡地を借り親と子が汗を流してりっぱな練習場を作り上げました。自分の力で作りあげた子ども達は大変喜びました。子どもの喜びを見ても達もますますはりきりました。市内の各大会や育友会主催の試合がありますが、その試合に優勝することよりも、町内の子ども全員が一同に集り

練習することにおもきをおきました。

子どもによっては、塾や勉強等により全員そろふことは無理なところもあったが、強制的にせず、勉強がすんでから練習するようにしむけました。

練習は、子ども達だけではなく、できるだけ父兄も参加してもらうようにしました。それに、選手だけの練習ではなく、町内全員（一年生より六年生）練習させるようにしました。

このような練習で、次のことがらが、よくなったように思われます。

① チームの和ができた。子ども達の中には、友達をもたない子、遊びをしらない子どもが多かったので、全員ソフトボールやフットベースボールに取りくませました。

子ども達の意識を高めるために、一年生より全員の子どもに、ユニホームを着せました。これは、「ぼくは、町内の選手だ、町内の一員だ。」の

自覚を持つことになり、消極的な活動しかなかった子ども達が積極的に活動し、練習にも熱がはいりました。

また、町内みな同じ仲間だという和ができ、みんなで一緒にする事を覚えました。これは、優勝以上の価値があったと思います。

② 低学年が高学年を尊敬する。日頃の練習で、高学年が低学年の指導をよくし、兄弟となり、よき相談相手になったことだと思えます。

③ 父兄との話しや礼儀がよくなった。子ども達が町内の父兄を知るために、できるだけ一緒に練習し、汗を流すことにした。親もできるだけよき理解者になるために努力した。

このようなことで、朝夕のあいさつもよくなって来た。町内の子ども達が、同じ仲間として助け合い、最後までやり抜く態度を育てるため、もっともつと、町内育友会をさかんにし、子ども達を守ってやらなければいけないと思

いました。
(文責 阿比留)

学級だより

三小ちびっ子祭り

開かれる

主体的な生活態度の育成をねらって活動している児童会（会長 浜本孝徳）が、三月三日のひな祭りに、はじめて島三小ちびっ子祭りを開いた。計画・運営いっさい子どもたちの手によりなされ、校長先



生をはじめ、他の先生方をびっくりさせた。ちびっ子祭りのプログラムは次のとおりです。
一、はじめのことば
二、歌（ひなまつり）
三、よい子の表彰
四、発表

- ① パレークラブ発表
 - ② 笛の演奏（三年四組）
 - ③ フットベースボールクラブ発表
 - ④ 紙しばい（五年二組）
 - ⑤ 焼き物クラブ発表
 - ⑥ 体操クラブ発表
 - ⑦ ゲーム（四年三組）
 - ⑧ 将棋クラブ発表
 - ⑨ クイズ（四年四組）
 - ⑩ 無線クラブ発表
 - ⑪ 劇（五年三組）
 - ⑫ ししゅう・編み物クラブ展示発表
 - ⑬ 科学クラブ展示発表
 - ⑭ 白山地区パレークラブの紹介
 - ⑮ おたのしみくじ
 - ⑯ おわりのことば
- 三校時、四校時の二時間で実施したが、時間のオーバーがあったが盛会であった。十四名の子どもたちであったが、非常によいことであると思う。よい子の表彰は学期一回ぐらいはほしいものです。
(取材 広報部)

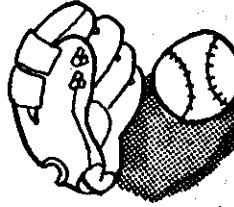
長崎県一を

ねらう

白山サッカー少年団

会長 増永俊幸

三小地区の小学生高学年を対象に、スポーツ精神の培養と徳性ある人格づくりを目的に、昭和五十一年四月に結



紹介

白山地区サッカー少年団

成された。白山サッカー少年団でありすが、三年目の今年のみごとに花が咲いた年でありました。七月の全日本少年サッカー県下大会では準決勝で長崎の土井ノ首に惜敗し全国大会への出場権を逸しました。九月のNBC杯県下少年サッカー選手権では決勝戦で再び土井ノ首と対戦し、

みごと勝利を収め、県下大会初優勝を挙げました。これもひとえに校長先生をはじめとする学校当局の暖かいご支援のためものだ。深く感謝をいたしております。

さて、今年度最後の大会であります。全九州小学生クラブサッカー選手権県下大会が三月十八日より二十一日まで長崎市に於て開催されますが、この大会にも市内予選で勝ちぬいた白山が出場します。NBC杯につづき優勝し九州大会

(三月二十六・二十七日熊本市)への出場権を得ようと毎日四時から五時三十分まで一致団結して練習にも熱が入っています。

団員は現在十六名で、その他に白山地区少年サッカースクールの生徒(五年三名、四年十五名、二年四名)二十二名が毎週、月・水曜日の二日間少年団とともに活動しております。来たる四月の少年団員募集を待っています。

白山サッカー少年団員名(六年)井口洋一(主将)、小島正生、増永幸夫、小林博徳、松下敦、林田耕作、小林和久、松本学、佐藤友三、向江明仁(五年)満尾和久、梅崎春夫

(四年)小島武、松本平治、浜崎省治

(二年)増永健次

白山サッカー少年団の戦績

4月 市民体育大会「サッカー」小学生の部……優勝

7月 全日本少年サッカー県下大会……第三位

9月 NBC杯県下少年サッカー選手権(小学生の部)……優勝

10月 第二回島原市スポーツ少年団サッカー大会……優勝

11月 第二回島原半島少年サッカー大会(小学生の部)……優勝

1月 三地区(島原・諫早・大村)親善少年サッカー大会……優勝

3月 全九州小学生クラブサッカー県下大会へ出場

来年度の期待が大きい
白山バレーボール部

バレーボールの大きな女の子ばかりが集まって作っている社会体育としてのクラブです。市・県のスポーツ少年団に加盟し活動しています。発足して三年目を迎えようとしていますが、その歩みなりを紹介しますが、三年前の夏大村で全日本少年少女バレー

長崎大会が限かれ、それにチーム出場したのがクラブ誕生のきっかけです。田中正之先生、伊藤吾先生、吉岡晃先生の、夏休み返上しての指導で、バレーのおもしろさ、チームプレーの楽しさなどを知り、大会後も自主的に練習しクラブとしての素地となったわけです。次の年、正式にクラブとして希望者を募ったと



ころ、約六十名の入部でうれしい悲鳴をあげました。田中伊藤両先生の転勤で、吉岡先生、そして新しく事務の松尾夏子さんにコーチとして指導をうけました。この年、教回の各大会に出場しましたところが成績ももう一歩というところでした。でも六年生(現中)を中心に、まとまりをみせ技

術も向上してきたようです。そして二年目のことし、吉岡先生にかわって新任の山下功先生を迎え、十月から四年生も部員に加え、約四十名でがんばって来ました。五、六年の指導を松尾さん、四年の指導を山下先生が主に受け持ち、練習にも熱がこもり、八月の県大会では初の三回戦出場を果たし、十月島原、南高大会で二位入賞、三月の市内送別(六年の部)大会では惜しくも三位、新人戦(五年以下)では五年生が初優勝、そして初出場の四年生も二勝し三位に入賞と大活躍をみせ、今後の大きな励みとなりました。

今年、保護者会も正式に発足し、部長 塚崎和秋氏、副部長 広田誠一氏のもとに大会の応援や、選手のお世話、時には練習のコーチにとり組みが始まり、白山クラブも実のあるものに成長してきました。

去る三月四日(日)保護者会対四・五・六年対抗の送別試合をしましたが、親も勝負の試合ぶり(一勝一敗一分け)でした。次年度部長に広田氏、副部長に勝田良子氏、杉下スミ子氏に内定し、更に活動を盛り上げていこうとされていくと見えます。

(文・中島一雄)

